

静岡県精神保健福祉協会

News Letter -No.33-

巻頭言

静岡県精神保健福祉協会 常務理事

三浦 一也（医療法人 好生会 小笠病院）

精神保健福祉医療について日々の思い



令和5年6月より常務理事を拝命した三浦でございます。

当協会の目的とする『県民のこころの健康づくり推進と精神障がいに対する正しい知識と理解の普及啓発』のさらなるお手伝いが出来、大変光栄と存じます。

所属は掛川市の民間精神科病院・好生会小笠病院です。

平成7年5月、医療法人好生会理事長。その後、他県の大学病院を辞し、平成9年4月、浜松市の好生会三方原病院院長。平成26年6月、好生会小笠病院院長として赴任しました。現在は理事長でも院長でもありません。超優秀な後輩諸氏にその役目をお願いすることが出来ました。

今は、いつの間にか40年目の一人の精神科医師として、大変微力ですが、外来・病棟ご利用の皆さまへ福祉医療をご提供しております。地元掛川市、静岡県、静岡市の保健福祉医療に関する会議や審査会などにも出席の機会をいただいております。

私の駆け出しの頃、民間精神科病院に、コメディカルスタッフは、全く充足していませんでした。今はどうでしょうか。足りているとはとても云えませんが、私の職場でも多職種の同僚が他職種の同僚と協働しています。かつては、入院されても、回復に時間がかかり、その間に両親が他界されたりし、なかなか自宅に戻れない方が何人もおられました。その後、薬剤の開発が進み、精神科診療所が増え、外来通院しやすくなってきました。入院中心の精神科医療から外来中心の精神科医療となってきました。様々な福祉施設、社会資源も増え、公的な制度も充実し、今迄だったらすぐには退院できなかった皆さまも、退院先が見つかり易くなってきています。法律も改訂され、入手出来る情報量も多くなり、ご利用の皆さまも、我々職員もとても忙しくなっています。

おわかりにならない事、お知りになりたい事、沢山あると思います。精神保健福祉医療を担っている機関の職員に是非お尋ね下さい。どこの機関も業務量増加の割には、人手不足でご希望通りのお答えが出来ない時もあるでしょう。それでもお手伝いするのは当り前のことです。

どうぞご用命ください。お待ちしております。



第63回 静岡県精神保健福祉協会 理事会・総会を開催しました



名誉会長 挨拶
石田 多嘉子



来賓 祝辞
静岡県議会厚生委員会委員長
望月 香世子 様



来賓 祝辞
静岡県健康福祉部長
青山 秀徳 様



〈総会〉



令和6年6月12日（水）、静岡県男女共同参画センターあざれあ 6階大ホールにおいて、第63回静岡県精神保健福祉協会総会が開かれ、協会役員、個人会員、各会員機関、団体の代表者の方々など多くの方が出席されました。

来賓として、静岡県議会厚生委員会委員長 望月香世子様、静岡県健康福祉部長 青山秀徳様に御出席をいただきました。石田多嘉子前会長が名誉会長に、溝口明範前副会長が顧問に就任し、石田名誉会長より御挨拶を申し上げます。

総会では、令和5年度事業実績、歳入歳出決算、監査報告、令和6年度理事選任案、事業計画案、歳入歳出予算案など5つの議案が審議され、全て可決されました。

午前には、あざれあ特別議室において、理事会が開催されました。

総会審議に先立ち、令和5年度の事業実績、令和5年度歳入歳出決算・監査報告。

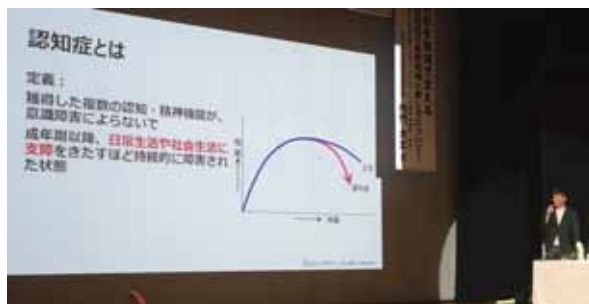
令和6年度事業計画案、令和6年度歳入歳出予算案が審議され可決されました。

令和6年度は、役員の改選に当たるため、総会で理事選任案が可決された後、臨時理事会が開催され、会長・副会長・常務理事・評議員・監事が推薦、委嘱されました。



〈理事会〉





記念講演会



認知症を地域で支える

～認知症の基礎知識と接し方について～

医療法人社団彰耀会 メモリーケアクリニック湘南 理事長・院長
横浜市立大学医学部臨床医教授 うち かど 内門 ひろ たけ 大丈 氏

総会終了後、認知症専門医である内門大丈氏をお招きして、記念講演会を開催しました。

日本では、2025年には、65歳以上の5人に1人が認知症となる、95歳では80%の方が認知症となると言われており、認知症は身近な病気であることが示されました。御家族が気づくポイントとして「いつも探し物をしている」「きれい好きなのに掃除をしなくなった」「隣の家に勝手に上がり込むうとして知らせを受けた」「久しぶりに電話をしたら、上手く会話のキャッチボールができなかった」「冬なのに扇風機をつけていた」など、分かりやすいポイントが示されました。

1次予防として、認知症の原因である基礎疾患の予防と生活習慣の改善があげられました。ウォーキングなどの身体活動と、禁煙、高血圧と糖尿病の管理が大切であることが示されました。

2次予防として、早期診断と治療があげられました。薬物療法では、記憶に関する神経伝達物質を増やす薬や、神経細胞を保護して認知機能を維持する薬があり、治療有効性は3割と言われますが、**薬物療法を受けることも選択肢の1つ**であることが示されました。

3次予防として、病気の発症後のリハビリや適切なケアがあげられました。これらにより**残存機能の回復・維持**をすることで、**認知症の進行を遅らせることもできる**と言われています。パーソン・センタード・ケアや「認知症です」といえる町づくりが大切である事が示されました。こうした地域包括ケアの取組として、2019年4月に始まったプロジェクト「SHIGETAハウス」が紹介されました。「『安心して認知症になれるまち』地域に開けた拠点を平塚に」ということで、認知症の専門医である東京慈恵会医科大学の繁田雅弘教授の生家を、カフェや認知症について啓発する講習会の拠点、企業研修等を行う場所に生まれ変わらせようとしているプロジェクトです。

最後に内門氏から、認知症の人に対しても「自分がされて嫌だと思うことはしない」というつきあい方の基本は同じで、「気分・感情」は認知症でも変わらず残るということを日々意識し、診療にあたっているというお話がありました。

内門氏は多数の文献を執筆されており、これらの本を手にとって講演会ではお話され切れなかった認知症についての理解を深めていきたいと感じました。



参加者の方々の感想から（抜粋）

- ・早期発見、早期治療が大切だと思った。
- ・認知症という特性を持った1人の人として、向き合う姿勢が大切だと思った。
- ・認知症になっても好きな事や大事にしたいことなど感情の部分は変わらず残るとわかり、そこを大切にしたいと思う。
- ・認知症だとしても、普通の人が嫌だと思うことは嫌なんだという当たり前の感覚を忘れないようにしたいと思った。
- ・認知症になってもそれほど怖くないんだと思えた。どんな人にとっても今を充実させることは、とても大切だと実感し、実践できるよう生活したい。
- ・いつか自分が認知症になっても大丈夫な地域にできるように頑張りたい。
- ・認知症の当事者、家族、支援者が、壁を作らずに接することができる取り組みが、多くの地域に広がっていくことを願う。

文献の紹介

- ・『認知症の人を理解したいと思ったとき読む本：正しい知識とやさしい寄り添い方』
内門大丈（監修） 出版社：大和出版（2018/4/14）
- ・『家族で「軽度の認知症」の進行を少しでも遅らせる本：正しい理解と向き合い方』
内門大丈 出版社：大和出版（2022/4/14）
- ・『レビー小体型認知症とは何かー患者と医師が語りつくしてわかったことー』
樋口直美・内門大丈
出版社：筑摩書房（2023/12/7）
- ・『レビー小体型認知症 正しい基礎知識とケア』内門大丈
出版社：池田書店（2020/11/4）



令和6年度受賞者紹介

総会審議に先立ち、令和6年度の静岡県知事功労別表彰が静岡県健康福祉部の青山秀徳部長より、また静岡県精神保健福祉協会長表彰が静岡県精神保健福祉協会の山末英典会長より授与されました。

令和6年度知事功労別表彰（保健衛生功労）受賞者（4名）

お名前	御 所 属
青木 志郎 様	公益社団法人 静岡県断酒会
横山 幸子 様	公益社団法人 静岡県精神保健福祉会連合会
杉山 直也 様	公益財団法人復康会 沼津中央病院
前林 勝弥 様	一般社団法人 静岡県精神保健福祉士協会



令和6年度静岡県精神保健福祉協会長表彰 受賞者

永年勤続功労表彰 (8名)

お名前	御 所 属
佐藤 智朗 様	医療法人財団新六会 大富士病院
河井 まつみ 様	医療法人社団辰五会 ふれあい南伊豆 ホスピタル
相馬 清美 様	医療法人それいゆ会 河津浜病院
宇佐美 真利子 様	一般財団法人 富士心身リハビリテーション 研究所附属病院
高岡 大昌 様	医療法人好生会 三方原病院
鈴木 孝和 様	公益財団法人復康会 鷹岡病院
水野 洋一 様	社会福祉法人 Mネット東遠
石川 菜保 様	公益財団法人復康会 鷹岡病院



特別功労表彰 個人 (2名)



《 受賞者の皆様 》

お名前	御 所 属
小幡 とし子 様	公益社団法人 静岡県精神保健福祉会連合会
西村 道子 様	公益社団法人 静岡県精神保健福祉会連合会

心の健康フェア2024 令和6年11月13日(水) 13:30~ あざれあ大ホール
講演会「心身の健康維持・向上のために必要な睡眠の知識」
~健康づくりのための睡眠ガイド2023を中心に~

講師 国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所 睡眠・覚醒障害研究部
部長 栗山 健一 氏 **入場無料**

こころの健康づくり講演会の御案内

精神保健福祉協会では、地域精神保健福祉思想の普及及び啓発を図り、県民の精神保健福祉の向上に資するため、適当と認めた団体に対しこころの健康づくり講演会開催の支援を行っています。

今年度開催された講演会と、9月以降開催予定の講演会を御紹介します。

すでに開催された こころの健康づくり講演会



★「多様性とながら～心理支援と社会～」

開催日：令和6年6月23日（日）

講師：朝日新聞編集委員 大久保 真紀 氏

会場：静岡県男女共同参画センターあざれあ 大ホール

主催者：一般社団法人静岡県公認心理師協会

〈内容〉「声なき声に耳を傾ける」というタイトルで、取材対象の当事者に信頼され、声を託されていく過程の話

〈感想〉心理支援者にとって個人の支援だけでなく社会に働きかけていくことの必要性についても考える機会になった。

★「聴く・寄り添う・そして」

開催日：令和6年7月29日（月）



講師：公立・私立高校カウンセラー 蔭山 昌弘 氏

会場：御殿場市民交流センター

主催者：（福）すぎな むつみ作業所 御殿場小山つくし会

〈内容〉不登校の子や悩んでいる大人に対して、寄り添って聴く、カウンセラーの必要性、人と人は網の目のように繋がっている、母親としての寄り添い方、教師としてのあり方についての具体的な話。

〈感想〉「人の心を結ぶ生き方」という言葉が心に沁みだ。家族への寄り添い方に気を付けようと思った。

9月以降 開催予定の講演会

☆講演会への参加希望者は、
直接主催団体へお問い合わせください。

開催日	会場	テーマ・講師	主催団体
令和6年 9月7日(土)	菊川市総合福祉センター プラザけやき	ストレスとコミュニケーション おもしろ健康教育研究所 理事 伊藤純子氏 副理事 高橋佐和子氏	菊川市健康づくり課 0537-37-1175
令和6年 9月11日(水)	湖西市立中央図書館 視聴覚室	ゲートキーパーについて 西部健康福祉センター浜名分庁 福祉課班長 宮地俊行 氏	NPO法人さざなみ会 053-575-1021
令和6年 11月19日(火)	三島市立保健 センター	ストレスへの理解とマインドフルネス 臨床心理士・公認心理士・社会学博士 鈴木文月 氏	三島市保健委員会 055-973-3700
令和7年 1月18日(木)	佐倉地区センター さくらんぼホール	精神障がいや心の病気を持つ方が暮らしやすい 共生社会の実現を目指して 地域活動支援センター御前崎相談事業所 所長 八木光春 氏	社会福祉法人 Mネット東遠 0537-86-7576

【当協会の活動に御賛同いただいている会員企業様】

（敬称略・順不同）

静岡銀行・浜松いわた信用金庫

（有）サカエ印刷・（株）日本軽金属蒲原製造所

静岡県精神保健福祉協会

〒422-8031 静岡市駿河区有明町2-20県総合庁舎別館4階
TEL&FAX 054-202-1220 E-mail: sizuoka_seisin@yahoo.co.jp
（事務局出勤日 月・水・金 9時～16時）ホームページはこちらから⇒

